

動物の五感のうち、味覚・嗅覚・聴覚・視覚の四感を複合した、ヤクシカの誘引手法等の検討について

九州林管理局 屋久島森林生態系保全センター
生態系管理指導官 渡邊 昭博
生態系管理担当 三國 卓裕

1 課題を取り上げた背景

ヤクシカの個体数管理の一環として、くくり罠で有害鳥獣捕獲を実施しています。くくり罠は獣道に設置し給餌により誘引する手法を行っていますが、近年、捕獲効率が悪く、誘引に苦慮しており、そこで、動物の五感の内、味覚・嗅覚・聴覚・視覚の四感を複合して効果的な誘引手法やシカ忌避物質の検証、スマートディアの発生要因等について、検証試験を行ったので報告します。

2 取組の経過

ヤクシカの生息数や捕獲圧の違う箇所で、実施しました。

(1) 誘引手法

①味覚（嗜好植物、不嗜好植物、人工飼料のヘイキューブ、アルファルファペレット、ユクル、鉾塩）、②嗅覚（醤油、味噌、ニンニク醤油、酢、山椒、ヒル忌避剤）、③聴覚（鹿笛）、④視覚（シカのデコイ）で、昼夜間の食性状況や誘引状況を検証しました。また、それぞれの味覚・嗅覚・聴覚・視覚を複合して誘引も試みました。

(2) シカの忌避物質等の検証

シカの忌避物質（犬の毛、柔軟剤、機械油、石けん、アルミ箔）や、オオカミの鳴き声を発生させ、シカの行動を観察しました。

(3) スマートディアの発生要因

くくり罠の空弾きや、花火（猟銃発砲後の火薬臭を想定）を使用して火薬の臭いを発生させ、その後の誘引状況も観察しました。

3 実行結果

味覚については、好んで採食する順位は表1のとおりです。また、ヘイキューブやペレットは、採食するまでに数十日かかり、ユクルや鉾塩は採食するまで1箇月以上かかりました。

嗅覚については、全種類において食性を確認でき、特に醤油につい

ては、反応がよく、また、不嗜好植物のアブラギリに醤油を噴霧すると舐める行動も確認できました。

聴覚及び視覚については、鹿笛に対する、オスジカの威嚇行動や、デコイに対するの無警戒などにより、誘引効果があることが確認できました。

シカの忌避物質については、犬の毛・石けん・柔軟剤・機械油・アルミ箔をカラスザンショウと一緒に設置し給餌した結果、何の警戒もなく、すべて採食しました。

また、オオカミの鳴き声に関しては、驚き遁走する行動は全く見られませんでした。

スマートディアの発生要因については、くくり罠の空弾きと火薬臭を実施した結果、通常時と変わらぬ採餌行動を確認できました。

4 考察

- ① 自然界に餌が豊富にあれば、給餌による誘引は難しい。特に人工飼料による誘引は速効性はなく時間が必要。
- ② シカは、好きなものから真っ先に食べる。
- ③ 一度餌付けば、頻繁に出現し、頻度は、昼間より夜間が多い。
- ④ 醤油など塩分は好きであるが、人工飼料は警戒。
- ⑤ 鹿笛やシカのデコイについては、誘引効果があると思われる。
- ⑥ 臭いには敏感でもあるが、好きな物に付加した臭いには鈍感。
- ⑦ 今回検証した忌避物質は効果が無いと思われる。
- ⑧ くくり罠の空弾きや火薬臭だけではスマートディアにはなりにくいと思われる。
- ⑨ シカの好きな食材は、警戒心を解くことにもなると思われる。
- ⑩ 生息数と捕獲圧に相関して、出現数も変動すると思われる。

今回の検証結果から、それぞれの地域におけるヤクシカの生息数や捕獲圧などの生息環境や嗜好植物の植生状況など十分に考慮した誘引手法に取り組む必要があると考えられます。

食材	嗜好／不嗜好	採食
カラスザンショウ	嗜好	◎
コバンモチ	嗜好	○
ガジュマル	嗜好	△
ヤマモモ	嗜好	×
アブラギリ	不嗜好	×
フカノキ	不嗜好	○
ハイノキ	不嗜好	×
ツバキ	不嗜好	×
ハゼノキ	不嗜好	○
ヘイキューブ	—	○
ペレット	—	○
ユクル	—	△
鉾塩	—	△

表1 採食状況